

2021-2022

第 29 回例会

会 報

No. 1177

豊橋東ロータリークラブ

事務局：豊橋市花田町石塚 42 豊橋商工会議所内 TEL 0532-56-8566 FAX 0532-39-7520

会長：齊藤伸明、副会長：平野正博、幹事：水谷朱美、出席・会報委員長：坂牧博美

令和 4 年 4 月 6 日(水) 12:30~13:30

例会場：ホテルアークリッシュ豊橋 5F ザ・グレイスA

担当：国際奉仕

国歌「君が代」/ロータリーソング「奉仕の理想」/「四つのテスト」：新本 康欽 さん

ロータリーの友 4 月号読みどころ紹介：杉浦 正和 さん

ゲスト 豊橋市美術博物館学芸専門員 丸地 加奈子 氏

出席報告

会員総数	計算会員	出席免除者数	欠席	出席率	3 月 23 日修正出席率	ビジター
52 名	47 名	7 名	9 名	80.85%	85.11%	0 名

会長挨拶

齊藤 伸明 会長

先週は渥美線沿線、崑山会館の桜、巴江（はこう）神社の御祈禱、雅楽の演奏に感銘をうけました。日本の花見の起源は奈良時代の貴族行事で当初はウメの鑑賞だったが、平安時代に桜に代わった。花見の風習が庶民に広まっていったのは江戸時代で、徳川吉宗が浅草（墨田川堤）や飛鳥山に桜を植えさせ庶民の行楽を奨励した。川沿いに桜の名所が多いのは毎年多くの人が花見に訪れて土手を踏み固めて川の決壊を防ぐ効果を期待したためで、いわば災害対策だった。

本日のプログラム

『美術館のたのしみかた』

豊橋市美術博物館学芸専門員 丸地 加奈子 氏

本日は皆さんがそもそもなぜ美術館に来るか、ということ探っていきたいと思います。出展している作家やそのジャンルが好きだから。美しさや心地よさを求めたいと言う人もいます。あるいは通りすがりに見たポスターや看板が大変面白そうだった、そういう方もいます。そして、これは初めての方だけではないと思いますが、美術館に来て疲れてしまうことがあるんじゃないでしょうか？美術館で熱心に見れば見るほど帰りはヘトヘトだと。そこで、今日はどうしたら美術館を楽しめるかということを考えたいと思います。美術館に行くといろんな文字情報があふれていることに気づかされます。我々は通常、美術作品を見るときにはまずは絵を見ますね。そこから文字を見てそこから文字に書いてあることを確かめるためにもう一度絵を見るということを繰り返している。疲れますよね。これって確認しているだけではないか、そこに書かれている情報を確かめるために絵を見ているに過ぎないのではないかと思います。それでは美術館の名が廃ります。リセットするために、あ

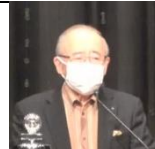


るいは違う感性を磨くために美術館に行くのであれば、この思考や論理を切り離してみてもいいか、というのが今日の提案です。まずは、絵の横に書かれているキャプションは読まなくてもいいのではないかとということをお伝えしたい。お客さんたちと対話しながら色々なものを自分たちで発見していこう、という鑑賞法です。それが脳を鍛えるといったことに繋がっていくんですね。キャプションを見ないで磨かれるもの、それは知識ではなく意識。キャプションを読むということは与えられたものを無批判に受け入れてしまう。しかし、「観る」ことで自分で見出すってこともいいんじゃないか。そうするとどうなるか、というと正解のない問題に取り組む力が磨かれるということなんです。ひいては問題発見能力の開発になり、問題を解決しようとする積極的な姿勢になります。皆さんに言いたいのは、絵を観てこれがどういう意味を持った絵なのか、すぐに答えが欲しいというのではなく、自分でまずは考えてみようということです。いろんなお話をさせていただきましたが、美術館に来て、キャプションや文字を見なくて、自分の中で対話しながら観てみてはどうですか、との提案でした。ご清聴ありがとうございました。

5分間スピーチ

莊 孝向 さん

豊橋東ロータリーの定款細則第 4 条第 2 節にはっきりと載っているんですが、当クラブの例会は水曜日、そして 12 時 30 分に始まる、と。何時に終わる、と書いてないです。ですから時の理事会が自由にそこは使っていただきたい。そして、魅力ある例会をやっていただきたい、という趣旨だと思います。従来の恒例に従うことばかりではなく、自由な発想でより魅力的な例会を組み立てていただきたいな、と思います。



原稿：杉浦 正和 さん／写真：新本 康欽 さん